

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2016年1月20日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

道議会意見書活かし、全道各地で、医療を守る取り組みを

2月7日 釧根集会

2月21日 十勝集会

各地で地域医療構想の検討が行われていますが、道の方針案について批判的な意見が出されています。12月10日の道議会の国への意見書【①診療報酬を引き下げないこと。②公立病院の運営に対する地方財政措置の充実・確保を図ること。③地域の医療重要を守る医療提供体制を構築すること】を活かして、地域医療を守る取り組みを広げましょう。12月の市町村議会で、5議会で地域医療の充実求める意見書が採択されました（函館市・歌志内市・伊達市・上砂川町・白老町）

2月7日には、地域医療を守る釧根集会（釧路市）、1日には、十勝（帯広市）でも集会の準備が進められています。

また、**根室市**では、「**地域医療を守り育てる条例素案**」の**パブコメ**を行っています（～1月28日）素案には「住み慣れた地域で安心して暮らしていく上で、地域医療はかけがえないのもの」とし、市の基本的施策やその必要な財源措置を講ずることも盛り込んでいます。

国立八雲病院機能移転計画

の見直しを求める署名開始

八雲病院を廃止する構想に不安や存続を求める声広がっています。

八雲での医療体制の確保などを求めています

2月14日には「八雲町民のつどい」

介護療養病床と医療療養病床（25対1）2年後に廃止？ 道内8千床に影響

政府は、介護療養病床を2011年度末までに廃止しようとしたが、国民の反対や他の施設への転換が進まなかったため、6年間延期されました（2018年3月）。その際、医療療養病床の看護人員配置（25対1）の経過措置も延期されました。これに対して、厚生省は「療養病床の在り方等に関する検討会」を設置しました。1月15日に行われた第7回「療養病床の在り方等に関する検討会」で、「サービス提供体制の新たな選択 肢の整理案」について、文言の一部修正を座長に一任し承しました（医療内包型と医療外付型の新設）

廃止の対象となる医療療養病床数

慢性期病床数の **8割以上** 宗谷

慢性期病床数の **5割以上**

上川北部・遠紋

慢性期病床数の **4割以上** 日高

◆慢性期病床数は2014年7月
医療療養病床（25：1）数は2016年1月

道内の介護療養病床は約4000床、医療療養病床（25対1）は約3800床、合わせて約7800床（2016年1月現在）で、住民の命と地域医療を支えています。これらの病床が廃止の対象になり、強制的に大幅に削減されることとなります。必要な医療が保障されるように、現行制度の存続と制度の充実を働きかけましょう。

診療報酬改定案は 連続マイナス、病棟からの追い出し推進・保険外拡大など改悪

1月22日まで厚生労働省がパブコメ 大幅プラス改定と改善の声を集中しましょう

厚生労働省は、2016年度診療報酬改定（案）について、国民の意見を募集しています（1月13日～22日）。詳しくは次のURLをご覧ください <http://www.mhlw.go.jp/public/bosyuu/iken/p20160113-01.html>

◆**実質マイナス改定**（本体はプラス0.49%、薬価と医療材料は1.33%引き下げで、全体の改定率はマイナス。全体のマイナス改定は2回連続）。マイナス改定は、医療の質・量、内容を制限し、医療機関の経営をはじめ地域医療の充実に逆行します。

◆診療報酬改定に当たっての基本認識では、超高齢社会における医療政策、**地域包括ケアシステムと効果的・効率的で質の高い医療提供体制の構築**、経済成長や**財政健全化**との調和を上げています。今でも在院日数の制限などで安心して入院できません。病棟から在宅への誘導、保険外診療の拡大・負担増などが含まれます。

必要な医療が受けられるように、診療報酬の大幅改定や改善を求める意見を集中しましょう

